木地師

Kijishi

木を感じる暮らしと
山と「私」をつなぐ手仕事のこと

東近江市

05

現代の暮らしを彩る木地師の製品

木地師のつくるお椀や盆などは、古くから日本の食卓で使われてきました。最近では、パスタ皿やランチョンマットといった、現代の食事に合わせたものもつくられています。

木目が美しく、温もりのある木の器は、和食、洋食、エスニック、どんな食事にも似合います。木のお椀は熱々のスープや味噌汁を入れても熱くなりにくく、また中身は冷めにくいのがポイントです。

トチ、ケヤキ、ナラ、スギなど木の種類は様々。それぞれの木の特長を生かして木目の美しさや楽しさを表現しながら、人々の暮らしの中で木に触れる機会が増えればと願っています。

01

木地師とは

ろくろ(轆轤)と呼ばれる工具で、とち・ぶな・けやきなどからおもに椀や盆などの木地をつくる職人のことを木地師と言います。ろくろ師や木地屋とも呼ばれます。かつて木地師の多くは、日本各地の深山に入ってろくろを引き、良材を求めて新しい山へと移住する暮らしを送っていました。

木地師は、ろくろで回転させた木材に、「手カンナ」をあてて製品を削り出します。
製品の微妙な表面を削り出すために、刃の形や柄の長さの異なる何本もの手カンナを駆使します。
この手カンナは、木地師が自ら刃を鍛えたり、研いでおり、木を削る技術ともに、鍛冶などの技術も重要と言われています。

Facebook

「木地師のふるさと」で検索！

木地師の歴史と文化に関する情報発信やネットワークづくりのためにFacebookページを開設しました。ぜひ「いいね」を押してください。

東近江市 企画部企画課　2017年3月 発行

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町10番5号
TEL (代表)0748-24-1234 (直通)0748-24-5610
FAX 0748-24-1457

企画・編集　株式会社 地域計画建築研究所(アルパック)
デザイン　株式会社 タケコマイ
写真(01,05)　富永一史
フードコーディネート・スタイリング　辻並麻由
イラストレーション　atelier minori

02

木地師の製品

木地師がつくる製品には、日用食器や茶器などのほか、ろくろ技術を生かした、コマやけん玉、こけしといった民芸品などもあります。

茶器

木製の茶筒のほか、茶器の一種で抹茶を入れるのに用いる「棗（なつめ）」もろくろでつくられた製品です。

茶筒

なつめ

民芸品

こけしは、江戸時代末期から東北地方の温泉地において湯治客にお土産用として販売された幼児用の人形で、産地によって形などの特徴に違いがあります。

こけし

日用食器

挽物で多いのは汁椀やお盆です。熱い物を入れても器自体が熱くならず、冷めにくい特徴があります。菓子器やサラダボール、パスタ皿など、木のぬくもりを生かした製品もあります。

お椀

お盆

玩具

ろくろを使った木地玩具としては、コマ、けん玉、ヨーヨーなどがあります。

コマ

けん玉

その他

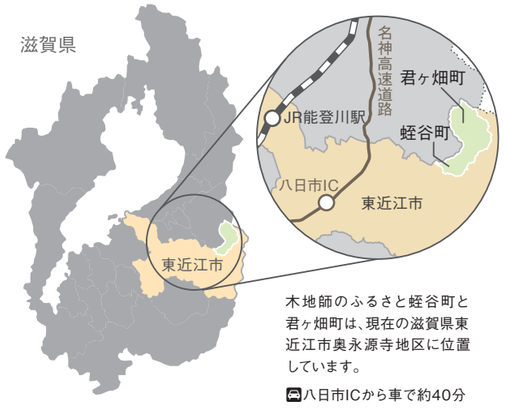
近年では、ボールペンやスピーカー、ジュエリーボックスなど木の素材を生かしてろくろで挽いた様々な製品がつくられています。

03

木地師のふるさと

かつて、全国各地を移住しながら活動する木地師を保護・統轄する場所が、「小椋谷（おぐらだに）」と呼ばれる蛭谷町と君ヶ畑町にありました。

蛭谷町の筒井公文所、君ヶ畑町の高松御所から役人が全国各地の木地師を訪ね歩く「氏子かり」を行っており、氏子料や初穂料を徴収するほか、神札や鑑札（営業許可書）などを配布していました。



木地師のふるさと蛭谷町と君ヶ畑町は、現在の滋賀県東近江市奥永源寺地区に位置しています。

八日市ICから車で約40分

かつて「筒井公文所」の名で、全国の木地師を保護・統轄していた筒井神社がある地区です。筒井神社は木地師・ろくろの祖神とされ、その境内には「木地師資料館」があり、木地製品や氏子駈帳、往来手形などの古文書類や能面などが展示されています。

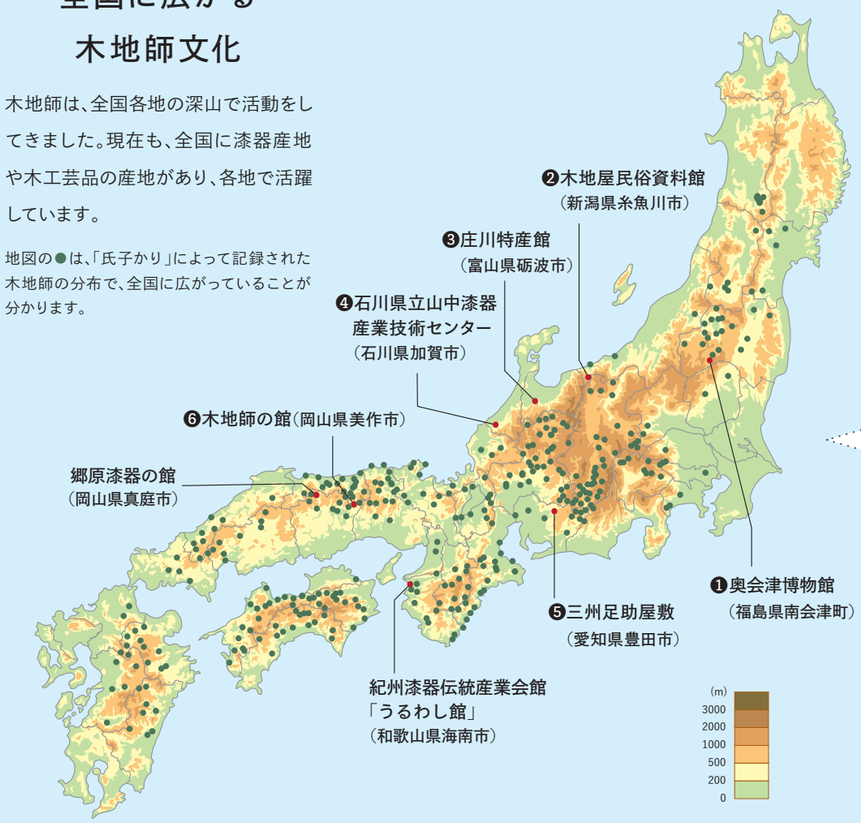
木地師ろくろの祖神とされる大皇器地祖神社（おおきみきじそじんじゃ）がある地区です。また、金龍寺は「高松御所」とも呼ばれ、氏子狩帳などの古文書が所蔵されており、全国の木地師を保護・統轄していました。金龍寺に隣接して惟喬親王（これたかしんのう）のものとされる墳丘もあります。

04

全国に広がる木地師文化

木地師は、全国各地の深山で活動をしてきました。現在も、全国に漆器産地や木工芸品の産地があり、各地で活躍しています。

地図の●は、「氏子かり」によって記録された木地師の分布で、全国に広がっていることが分かります。



この地図は、国土地理院発行の日本全図を使用したものです。

施設は平成28年度東近江市平成の氏子駈・氏子狩復活事業で訪問した施設の中から掲載しています。

木地師を紹介する
東近江市の施設

木地師資料館

筒井神社の境内にあり、蛭谷町所有の氏子駈に関する資料や木地製品などが展示されています。4月1日～11月30日のみ開館。要予約で料金は300円です。
TEL 050-5802-3313

君ヶ畑ミニ展示館

コミュニティバス終点のバス停にある展示館。木地製品やろくろの制作工程を紹介する資料などが展示されています。無料でいつでも見学できます。

木地師文化を紹介する全国の主な施設

休館日や入館料などは各施設のホームページ等でご確認ください。

❶奥会津博物館（福島県南会津町）

世界有数の多雪地域である奥会津で生活した人々が使用した民具を多数展示しています。なかでも会津漆器に用いる椀木地を生産した木地師に関する展示は、充実し一見の価値があります。

福島県南会津郡南会津町
糸沢字西沢山3692-20
TEL 0241-66-3077

❷木地屋民俗資料館（新潟県糸魚川市）

建物は木地屋独特の民家を使い、国の重要有形民俗文化財約1400点の道具、製品、古文書等を所蔵しています。栃の木が漆器になるまでの工程をわかりやすく展示しています。

新潟県糸魚川市大字大所797-1
TEL 0255-57-2501
11/4-4/30閉館（降雪により変更あり）

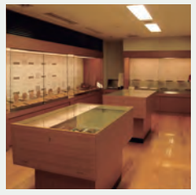
❸庄川特産館（富山県砺波市）

庄川水記念公園内にある施設の一つです。庄川挽物の展示・販売のほか、木工ろくろの実演やペン立てづくりの木工ろくろ体験（4月～11月の日曜日）もできます。

富山県砺波市庄川町金屋1100
TEL 0763-82-5696

❹石川県立山中漆器産業技術センター（石川県加賀市）

挽物ろくろ技術を専門的に学べる研修施設です。展示室と資料室には近代・現代の山中漆器の作品とろくろ挽きを主にした山中漆器関連の道具などの資料が展示されています。



石川県加賀市山中温泉塚谷町イ270
TEL 0761-78-1696

❺三州足助屋敷（愛知県豊田市）

明治から昭和初期にかけての中山間部の農家の暮らしと手仕事が再現された施設です。ここでは11種類の手仕事の一つとして「木地屋」の仕事の様子を実際に見ることができます。

愛知県豊田市足助町飯盛36番地
TEL 0565-62-1188

❻木地師の館（岡山県美作市）

約450年前から木地師が住んでいた地区にある木地師の技術を伝承する工房です。ろくろを使い、ヒノキ、ケヤキ等の天然木から盆や菓子器などの製作を初心者から体験できます。

岡山県美作市右手2461-2
TEL 0868-77-2316
または 090-8364-4636